国立大学法人
宮城教育大学 附属図書館ニュース

ISSN 1348－1525

こもれび

KOMOREBI

MIYAGI UNIVERSITY OF
EDUCATION LIBRARY NEWS

No.136
2021.3.16 発行

特集

図書館ツールを使いこなす!

CONTENTS

02 図書館インフォメーション
04 特集 図書館ツールを使いこなす!
08 企画展「宮川ひろの児童文学と教育」
10 学生の読書室
12 子ムェの本棚
企画展「宮川ひろの児童文学と教育」
トークイベントより
16 学修サポーターに聞いてみよう!
18 図書館スタンプラリー

図書館からのお知らせ!

図書館 Library Information インフォメーション

新入生のみなさん　ご入学おめでとうございます！
附属図書館では、みなさんの大学生活が充実したものとなるようサポートさせていただきます。利用方法を覚え、大いに活用してください。

「スタンプラリー」に挑戦してみてください!

昨年に引き続き図書館利用初心者を対象としたスタンプラリーを開催します。自分のペースで図書館の基本的な利用方法を一通り学ぶことができ、達成度に応じてグッズも入手できます。詳細は、本誌18ページ以降をご覧ください。なお、在学生の方も参加できますが、グッズには限りがありますので予めご了承ください。

『ProQuest Central』を導入しました!

『ProQuest Central』は、自然科学分野だけではなく人文社会科学分野の学術情報（雑誌論文、学位論文など）も幅広く収録した総合欧文データベースです。世界各国の主要新聞も収録されておりますので、日々の実践的な利用にもぜひご活用ください（本誌7ページに関連記事があります）。

バリアフリー化を進めています!

ボランティアの学生委員によるキャンパスバリアフリープロジェクトからの報告を踏まえ、昨年度は書架の整備やインターホンの設置、筆談ボードおよび耳マークの設置を行いました（インターホンはどなたでもお使いいただけます）。その他順次改善に努めておりますが、ご不便な点やお気付きの点がございましたらカウンターへお知らせください。

BEFORE

横倒しの本を整理しました

AFTER

2階インターホン(カウンター直通)

筆談ボード&耳マーク

「スパイラル・セッション」を開催しました!

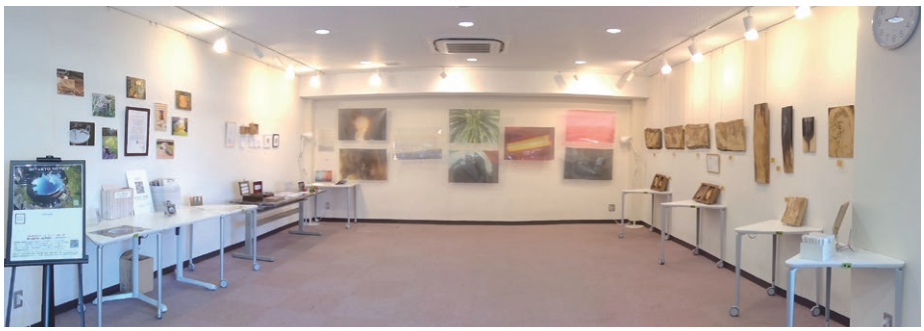
図書館では、体験型イベントとして「スパイラル・セッション」を開催しています。昨年度はコロナ禍の影響により例年に比べ開催数が大幅に少なくなってしまいましたが、状況を見ながら十分な準備を行い、今年度も様々なテーマで実施予定です。オンラインによるイベントもありますので、ぜひご参加ください。

リアル(館内)でも
オンラインでも
参加可能な
ハイブリット型で
開催しました!

月　日	タイトル	講師など
12月17-18日	クリスマスカード・ワークショップ	水谷研究室+情報・ものづくりコース+技術教育専攻の有志のみなさん
12月22日	やさしい英語音声学入門	兼澤桃花さん(学修サポーター)
12月22日	資料の探し方入門〜巨人の肩への昇り方〜	高橋聖さん(学修サポーター)

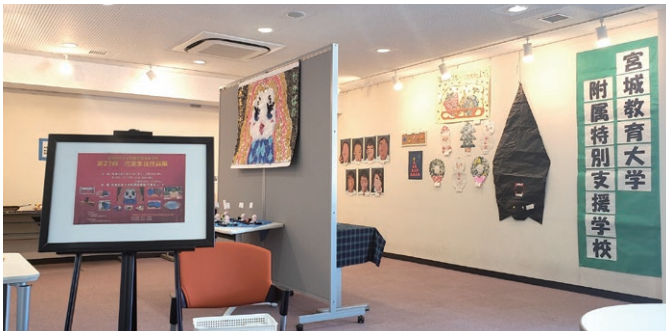
展示用什器を活用してください!

図書館の展示スペースは、学生のみなさんも利用することができます。自慢の作品や研究成果、サークルの活動内容などを広く発表してみませんか。イーゼルやパネル、展示ケースといった什器の貸出も行っておりますので、詳細についてはカウンターへご相談ください。



大学院美術教育専修2年次三人展

授業科目「学校経営と学校図書館」学修成果ポスター展



附属特別支援学校作品展

KOMO REBI

特集

FEATURE ARTICLES

図書館ツールを使いこなす！

必要な情報がどこにあるかを把握し、必要なときにアクセスできる能力は、課題解決・レポート作成・将来設計など、学生生活の様々な局面で時間的かつ内容的に大きな差を生み出します。限られた時間の中でその能力を育み輝かしい未来にたどりつくためには、できる限り早々に図書館ツールを知り、学び、使いこなす必要があります。

ここでは最低限知っていてほしい図書館ツールをダイジェスト形式で紹介しますので、ツールを駆使して様々な情報と戯れ、自分なりの領域を展開できるようになりましょう。

まずはこれ!

図書館はどんなところなのか。図書館で何ができるのか。図書館に関する情報はホームページに集約されています。情報は随時更新されるので、定期的にアクセスしましょう。有用なツールへのリンクや使い方をまとめた資料もありますので、時間の許す限り眺めてみてください。

宮城教育大学附属図書館ホームページ

http://library.miyakyo-u.ac.jp/

ホームページはこう使える！

- ▶図書館はいつ開いている?
- ▶本は何冊どれぐらい借りられる?
- ▶館内には何があるの?
- ▶資料のコピーをしたいけど、どうしたら?
- ▶夏休み中は図書館使えるの?
- ▶スパイラル・セッションって何?企画展とは?
- ▶本や論文ってどうやって調べるの?
- ▶分からないことがいっぱいで質問したい!

『マイライブラリ』は、図書館に足を運ばなくてもパソコンやスマホからいつでもアクセスできる自分専用図書館です。『マイライブラリ』を使いこなすことで、図書館利用の幅が大きく広がります。ちょっとしたカスタマイズも可能です。まずは大学のIDとパスワードでログインしてみましょう。

マイライブラリ

https://www.lib.miyakyo-u.ac.jp/opac/user/top

マイライブラリはこう使える！

- ▶借りている本や返却期限を確認したい!
- ▶返却期限を延長してもうちょっと読みたい!
- ▶人気のあの本に予約をかけて確実に借りたい!
- ▶図書館にない本を取り寄せたい!
- ▶借りた本の履歴を知りたい!
- ▶図書館内の部屋を貸し切って使いたい!
- ▶論文コピーを他大学から取り寄せたい!

基本情報を調べる!

『蔵書検索』(図書館用語として通称OPAC:オーパックといいます)を使うと、図書館で所蔵している資料を調べることができます。研究者用の専門書から絵本や話題の小説まで幅広く取り揃えていますが、まずは複数の入門書を比較しながら読み、ポイントを押さえつつ知識を体系化しましょう。

宮城教育大学附属図書館蔵書検索

https://www.lib.miyakyo-u.ac.jp/drupal/

- ▶どんな本がどこにあるかが分かる!
- ▶「電子ブック」や「電子ジャーナル」も読める!
  表示されるリンクから直接読むことができます!まだ「電子ブック」の数は少ないのですが、TOEIC対策などの英語学修関係やレポート作成関係を揃えておりますので、ぜひご利用ください[※学内限定]。
- ▶詳細検索から他大学の蔵書を検索することも可能!
- ▶ベストリーダー(人気のある本)も分かる!

『ジャパンナレッジLib』は、70以上の辞書・事典等を横断的に検索できるサイトです。言葉の意味を正確に理解していますか。ある事柄についてその背景を知っていますか。分かっているふりをしないのは、簡単なようで難しいことです。地道に辞書や事典を引き、知識に厚みを持たせましょう。

ジャパンナレッジLib[※学内限定]

https://japanknowledge.com/library/

主な(といってもほんの一部)収録コンテンツ

- ▶知識の集大成『日本大百科全書』
- ▶現代日本語中心の『デジタル大辞泉』
- ▶日本の歴史を網羅する『国史大辞典』
- ▶英米圏以外の英語も収めた『ランダムハウス英和大辞典』
- ▶珠玉の古典を網羅『新編 日本古典文学全集』
- ▶伝統の現代語事典『現代用語の基礎知識』…その他多数

ウィキペディアの上位互換!まずは検索してみましょう!

[※学内限定]となっているサイトは、契約上、学内のネットワークから使えるものです。自宅等からアクセスする場合は、「学認」という項目を選び、大学のIDとパスワードでログインする必要がありますが、未対応のものもありますので、詳細は図書館カウンターにご相談ください。

調べたい情報にうまくたどりつけない…と感じたら、「調べ方」自体を調べてみましょう。『リサーチ・ナビ』では、国立国会図書館職員が日々の業務の中で蓄積した、特定テーマの調査に役立つ資料や調べ方自体のノウハウを提供しています。図書館の中の人も度々お世話になっております。

リサーチ・ナビ

https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/

世の中を調べる!

速報性という側面ではネットニュースに及びませんが、世の中の流れや雰囲気を時系列で感じ取るには、新聞データベースが有効です。記事を過去に遡って確認することができるので、築き上げた知識とともに世相を見つめ、何が問題となってきたのか、今直面している課題は何か考えてみましょう。

聞蔵Ⅱビジュアル[※学内限定]

http://database.asahi.com/index.shtml

- ▶朝日新聞140年分の紙面収録・検索可能!(明治12年の創刊号から今日まで)
- ▶記事・広告数は約1500万件
- ▶原文にない「歴史キーワード」で検索可能!
- ▶『週刊朝日』、『AERA』、『知恵蔵』も収録

河北新報データベース[※学内限定]

https://t21.nikkei.co.jp/g3/CMN0F11.do/kd/

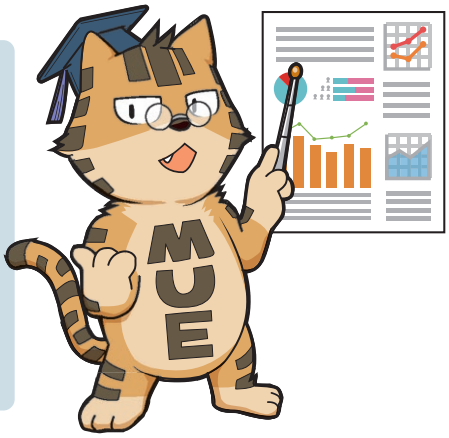
- ▶1991年8月分から検索可能!
- ▶震災関連の記事は、1897年河北新報創刊時からの記事を収録
- ▶宮城、東北の地域情報が充実
- ▶『石巻かほく』、『こども新聞』も収録

数字やデータは、客観的で強い説得力を有します。様々な調査が実施・公開されていますので、あなたの主張の心強い味方となるかどうか、数字の羅列の中から新たな発見がないか調べてみましょう。また逆に、数字やデータを駆使した強い言動に直面した際は、必ず原典を確認する必要があります。都合の良い形に歪められていないか十分に確認した上で、対応してください。

理科年表プレミアム[※学内限定]

https://www.rikanenpyo.jp/member/

各地の日出時刻や平均気温といった自然科学に関する様々なデータが、大正14年の創刊から最新年度版まで収録されています。暦・天文・気象・物理／化学・地学・生物・環境の7部門にわたる広範なジャンルから約15,000項目におよぶ図表データに簡単にアクセスすることが可能で、すべてのデータをCSV形式でダウンロードし加工・編集することもできます。



政府統計の総合窓口(e-Stat)

https://www.e-stat.go.jp/

日本の政府統計関係情報のワンストップサービスを目的としたポータルサイトです。各府省等が公表する統計データ、公表予定、新着情報、調査票項目情報などの各種統計情報が利用できます。

e-Govポータル

https://www.e-gov.go.jp/

行政機関が発信する政策・施策に関する情報、行政サービス、各種オンラインサービスなどに関する情報が整備されたWebサイトです。現在施行されている法令の検索も可能です。

ナクソス・ミュージック・ライブラリー[※学内限定]

http://miyakyo-u.ml.naxos.jp/

クラシックを中心に200万曲以上を自由に聞くことができる音楽データベースです。集中力を高めるために、優雅な気分に浸りたい休憩時間に、素敵な音楽に耳を傾けてみてください。

最先端を調べる!

研究者の研究成果は論文として発表されるため、論文を読むことで最先端の研究内容に触れることができます。また、論文同士は強い引用関係でつながっているため、引用文献をたどることで過去にどのような研究が行われてきたか、どのような形で派生・展開して行ったのかを知ることもできるでしょう。国立情報学研究所が提供する『CiNii Articles』を使えば、幅広く日本の論文を探すことができます。

CiNii Articles
https://ci.nii.ac.jp/

- 約2,200万件の論文を収録!
- 戦後発行の雑誌を網羅的に収録!
- 論文本文へのリンク多数あり!
  直接読むことができない場合は、論文が掲載されている「学術雑誌」を蔵書検索(OPAC)で調べましょう。本学で所蔵していない場合は、他大学から論文のコピーを取り寄せることができます。
- 『CiNii』(サイニィ)ではその他にも、大学図書館の蔵書や日本の博士論文を検索することができます。

『ProQuest Central』は、『Nature』などの世界有数の重要雑誌のほか、Cambridge、Emerald、Wiley等の複数の出版社が発行する学術雑誌を多数収録し、学位論文やレポート類も含め、全体で25,000タイトル以上の全文が利用できるデータベースです。外国語文献を広く探すことができます。

ProQuest Central[※学内限定]
https://www.proquest.com/

- 総収録数は31,000誌以上
- 英語だけでなく、ドイツ語やフランス語、中国語など多言語に対応!語学学修にも使える!
- 『Billboard』、『The New Yorker』等の一般紙も収録
- 『The New York Times』等、世界中の主要新聞が一気に読める!映像コンテンツもあり!
- 欧米の学位論文情報も多数収録
- 世界的な教育関連文献データベース『ERIC』、米国国立医学図書館が提供する『MEDLINE』、PTSD関連データベース『PTSDpubs』の横断検索も可能

ScienceDirect[※学内限定]
https://www.sciencedirect.com/

『ScienceDirect』は、世界最大規模の科学出版社であるエルゼビア社が発行する2,500誌以上の科学・技術・医学・社会科学分野の雑誌を収録したプラットフォームです。『ProQuest Central』には含まれていない雑誌が多いため、あわせて活用しましょう!

いかがでしたか。分野に特化したデータベースや特殊な形態の資料など、情報探索のツールはまだまだあります。必要な情報を求めて、更なる精進を重ねましょう。

■企画展

宮川ひろの児童文学と教育

宮川ひろ（1923～2018）は、小学校を舞台とする児童文学作品を数多く発表した作家です。1960年代の終りから2010年代まで約50年間、〈子ども〉や〈先生〉を描き続けました。その作品には、いじめや不登校をはじめ、学校現場における様々な問題も描かれています。

2020年度の附属図書館企画展「宮川ひろの児童文学と教育」（2020年10月30日～12月1日、附属図書館1F展示ホール）では、宮川ひろの作品や創作に関する資料等を展示、宮川ひろと教育との関わりや創作手法について検討しました。また、作品に描かれた子ども像や教師像についても考えました。ここでは展示の概要と意義を振り返ります。

宮川ひろと教育

企画展「宮川ひろの児童文学と教育」は全3章構成で、第1章「宮川ひろと教育」では、まず宮川ひろの生い立ちと教職経験を取り上げました。

宮川ひろは、群馬県利根郡東村大字千鳥（現在の沼田市利根町千鳥）で生まれ育ちますが、この「ふるさとの村」を「わたしの根っこ」（「わたしの根っこ」『日本児童文学』1996年5月）と呼び、数々のエッセイに思い出を記しています。幼年期の生活と出来事を小学生向けにまとめた自伝物語『しあわせ色の小さなステージ』（1988年 ポプラ社）も発表しています。故郷を舞台とする代表作『春駒のうた』（1971年 偕成社）は、ひろにとって、「書きたいと願っていたのはこの一作だけでした」（「『春駒のうた』によせて」『児童文芸』1986年11月）と語るほど思い入れのあるものでした。展示では、それらの資料を紹介しながら、作家宮川ひろの原点が父の求めに応じて話を語るという子どもの頃の体験にあったと考えられることや、小学校低学年の時に既に「学校の先生になりたい」と語っていたことなどを確認しました。また、17歳で母校の分教場の代用教員をつとめ、戦時中は東京の国民学校の教員として学童疎開の引率をしたという、ひろの教職経験に注目し、『夜のかげぼうし』（1978年 講談社）等の関連作品の内容や成立過程を検討しました。

『しあわせ色の小さなステージ』
宮川ひろ 作／伊勢英子 絵
1988年　ポプラ社

『春駒のうた』
宮川ひろ 作／北島新平 絵
1971年　偕成社

児童文学の展開と創作方法

展示の第1章の後半では、児童文学作家としての宮川ひろの歩みと、〈学校もの〉の創作方法に焦点を当てました。

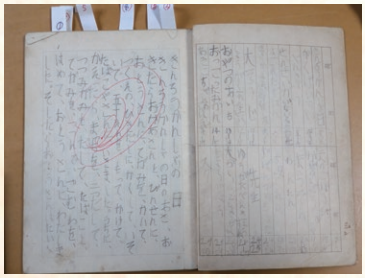
現在、宮川家には、宮川ひろが壺井栄の『二十四の瞳』に触発されて1953年に書いたという草稿「春駒」が保管されています。これは、宮川ひろの創作の出発点といえそうですが、児童文学ではありませんでした。ひろが児童文学の創作を志すのは、1963年に坪田譲治の講演を聞いてからとなります。坪田の主宰する雑誌『びわの実学校』の読者となり、その記事で知った日本児童文学者協会主催の「新日本童話教室」を受講、児童文学を書きはじめます。ひろ自身が処女作と呼ぶ作品「たからもの」が『びわの実学校』に掲載されたのは1966年5月、最初の単行本『るすばん先生』（ポプラ社）が刊行されたのは1969年10月でした。

草稿「春駒」（宮川健郎氏蔵）

その後、宮川ひろは、『四年三組のはた』（1975年 偕成社）、『先生のつうしんぼ』（1976年 偕成社）、『びゅんびゅんごまがまわったら』（林明子・絵 1982年 童心社）、『天使のいる教室』（1996年 童心社）などをはじめ、120冊以上の著書を刊行しますが、小学校を舞台とする〈学校もの〉が多いという特徴があります。展示を通して、それらの〈学校もの〉の創作方法を探り、現職教

員の著作や実践から材を得ていることを、宮川ひろの蔵書等から確認しました。また、ご子息宮川健郎氏からの聞き取りをもとに、健郎氏の小学生時代の作文帳（ひろは、毎日作文を書くようにと健郎氏に言い、健郎氏は6年間書き続けた）を手元において付箋を付し、創作の材料として活用していたことも確認しました。宮川ひろの創作は、「いい話」を集めることからはじまっていました。

宮川健郎氏の作文帳・表紙
（宮川健郎氏蔵）


宮川健郎氏、小学校1年11月の作文
（宮川健郎氏蔵）

国語教科書と宮川ひろ

宮川ひろの作品が掲載されている国語教科書の展示も行いました。最初に教材化されたのは、「あわてもの」（日本児童文学者協会編『お話の森＝11・12月』1969年 牧書店）です。『新訂新しい国語2下』（1974年 東京書籍）に掲載されました。その後、2000年代の初めまでの間に、「かげろう」（教育出版 5年）、「沢田さんのほくろ」（教育出版 4年または3年、日本書籍 4年）、「おはじき」（大阪書籍 5年）、「いばりんぼのくせに」（学校図書 2年）、「地図のある手紙」（日本書籍 5年）、「クロはぼくの犬」（日本書籍 2年）と、7作品が教材化されています。「沢田さんのほくろ」は、『るすばん先生』の中の一章を取り出して教材化したものですが、長期間にわたって教科書に掲載されていました。

作品の中の〈子ども〉〈先生〉

展示の第2章「作品の中の〈子ども〉〈先生〉」では、宮川ひろの作品に登場する〈子ども〉と〈先生〉を紹介しました。

〈子ども〉については、『四年三組のはた』（前掲）や『こうすけのおくりもの』（1983年 PHP研究所）、『おばあさんのつうしんぼ』（1987年 偕成社）などの作品を取り上げました。そして、宮川ひろの作品では問題に直面した時に子どもたちが寄り集まって主体的に考えて行動することが多いこと、大人たちを観察している子どももよく登場すること、子どもの発想力の豊かさと感受性の鋭さも描かれることなどを指摘しました。

〈先生〉については、『先生のつうしんぼ』（前掲）の古谷先生や、『たんぽぽ先生あのね』（2001年 ポプラ社）の上田文夫先生、『びゅんびゅんごまがまわったら』（前掲）の校長先生などに注目しました。弱点を持ち、その弱さを子どもに見せることのできる飾らない〈先生〉、子どもの話に耳を傾け子どもに寄り添う〈先生〉をひろは好ましいと思っていたと考えられます。また、「先生、きょうは、とってもおもしろかったね」（『たんぽぽ先生あのね』）という言葉を子どもから引き出す教育実践ができることを重視していたこともわかりました。

『四年三組のはた』
宮川ひろ 作／武部本一郎 絵
1975年　偕成社

『たんぽぽ先生あのね』
宮川ひろ 作／長谷川知子 絵
2001年　ポプラ社

『びゅんびゅんごまがまわったら』
宮川ひろ 作／林明子 絵
1982年　童心社

かかわりが深い児童文学者

展示の第3章「かかわりが深い児童文学者」では、児童文学の師匠・坪田譲治、作品発表の導き手となった今西祐行、50年にわたって交流を続けた作家仲間のあまんきみこ、長男であり創作の協力者でもあった宮川健郎の4人を取り上げ、著作物を紹介するとともに、宮川ひろとのかかわりを解説しました。4人とも、国語教科書とかかわりをもつ人物であることは、偶然ではないように思われます。宮川ひろは、直接的にも間接的にも、様々なところで教育と繋がりをもっていたようです。

宮川ひろの児童文学と教員養成

今回は「教育」を切り口として「宮川ひろの児童文学」に関する展示を行いました。宮川ひろは教職経験があるだけでなく、約50年間の創作活動の中で現職教員とも関わりながら〈子ども〉や〈先生〉を見つめ続けた作家でした。ひろの作品に描かれる子ども像や教師像は、教員を目指す学生たちに子どもについて、教育について、考える手がかりを与えてくれるように思われます。教員養成のテキストとして宮川ひろの児童文学を活用する方策を検討することが今後の課題です。

2021年度の企画展は7月から開催予定です。ご期待ください。

第30回 My Favorite Books

学生の読書室

これから日本語学の勉強を始める人や
日本語教師になる人のための、日本語入門書。

私が選ぶこの一冊

『やさしい日本語のしくみ：日本語学の基本』

庵功雄[ほか] 著、くろしお出版、2020年4月、改訂版

初等教育教員養成課程　国語コース4年　**村上 瑞季**

「とりたて助詞」という言葉を知っていますか。私はこの本を読んで、初めて知りました。最近「〇〇しか勝たん！（〇〇が1番の意味）」という言葉が流行っていますが、この言葉にも「とりたて助詞」が使われています。

この本では、「言われてみれば確かに」「知らなかった」と思えるような日本語の基本が分かりやすく書いてあります。日本語を母語とする私にとって、日本語は身近で、文法や発音を意識することは少ないです。しかし、大学で留学生と関わったり、この本を読む中で、日本語の面白さに気づかされました。例えば、一人称がたくさんある点も、日本語の面白さだと思います。（私、ぼく、俺、あたしなど、たくさんありますよね。）

この本を読んで、日本語への知識を深めてみませんか。日々の会話がより面白くなるかもしれません。

私が選ぶこの一冊

『あなたは絶対！運がいい』

浅見帆帆子 著、廣済堂出版、2007年2月、新装版

中等教育教員養成課程　家庭科教育専攻4年　**成澤 瑠香**

「なんだか最近ついてないな…。」と悩みをいつまでも引きずったり、「どうして私だけ…。」と人と比べたり、気づいたらマイナスなことばかり考えてしまっていませんか？

自分の心の持ち方1つで、人生は大きく変えることができます。よく聞く「プラス思考」とはちょっと違う「“本物の”プラス思考」で運が良い人生を作る方法を教えてくれます。運が良い人生にするのも、運が悪い人生にするのも、全ては自分次第です。この本に書かれた、誰でもできる、運を引き寄せる方法を実践すると、運が良くなるだけでなく、今まで抱えていた悩みがちっぽけに思え、毎日を明るく楽しく生きることができるようになります。私自身、この本に出会って、人生が変わっていくのを実感しました。心が軽くなり、前向きになれる一冊です。

ぜひこの本を読んで、自分自身で運が良い人生を作ってみませんか？

私が選ぶこの一冊

夫ではない男の子供を宿し、彼女は日本に渡ってきた―

『パチンコ』

ミン・ジン・リー 著、池田真紀子 訳、文藝春秋、2020年7月、上下巻

大学院修士課程　社会科教育専修1年　**髙橋 聖**

「パチンコ」――。私たち日本人は、この銀玉はじき遊びに莫大な金銭やエネルギーを投じてきた。かけられてきたエネルギーがあまりにも大きいために、「パチンコ」という語は単なる遊戯を超えて、「在日」を中心とした民族問題、依存症の問題、刑法学的な問題、反社会的勢力とのつながり等々、多種多様なテーマと併せて語られることも多い。

この小説で展開されるドラマが、「パチンコ」に関する要素が曼荼羅図のように相互に絡み合っているのは、そんな「パチンコ」をテーマとしているだけに、ある意味では運命的必然だったのかもしれない。すなわち本作はまず感動巨編であることは間違いないのだが、トレンディ・ドラマでもあり、ピカレスク・ロマンでもあり、そして在日社会のフィールド・ノートでもある。私のこの言がまったく誇張ではないことは、本書を手に取れば即座に諒解されるだろう。あなたの人生に確実に糧になる名作である。賭けてもよい。

私が選ぶこの一冊

ぼくは、エリックさんからチョコレートのほんとうの味を教わった…

『チョコレートと青い空』

堀米薫 作、小泉るみ子 絵、そうえん社、2011年4月

教職大学院　高度教職実践専攻1年　**石川 光華**

“無関心が最大の敵”

町で唯一の専業農家をしている周二の家にガーナからエリックが来た。エリックとの出会いによって周二達に化学変化が起きる。目の前の日常が違って見えてくるのである。農家の仕事の楽しさ面白さ誇らしさ、自分の町の景色の美しさ…。また、「ガーナはチョコレートの国」だと思っていたのに、エリックが大人になって初めて食べたぐらい高級品で子どもが働いて学校に行けないことや食べ物がなくて困っているアフリカ諸国の実態について知った周二は当たり前だと思っていたことがそうではないことに気づく。

作者である堀米薫さんは宮城県角田市で現在も専業農家をしながら作家をされている。本書は、農業経営者の高齢化や後継者問題、海外協力隊、フェアトレード、アフリカ諸国の実態…。現代的諸課題についてのテーマが詰まったものであると思う。児童文学でありながら、私は子ども達はもちろん大人でも読んでほしい作品の一つである。そして、本書をきっかけに“関心”を持って日常を違う角度から見つめる機会を作ってほしいとも思う。

児童書紹介
コーナー

子ムェの本棚

第13回

子ムェの本棚は、児童書に関する話題をお届けするコーナーです。今回は、2020年度に附属図書館企画展「宮川ひろの児童文学と教育」の関連行事として開催した、トークイベントの報告を掲載します。このイベントでは、宮川ひろの児童文学の根源と意義に迫ることができました。

企画展「宮川ひろの児童文学と教育」トークイベントより

編集・執筆 東北工業大学准教授・本学非常勤講師 大木葉子

2020年10月30日～12月1日に開催された企画展「宮川ひろの児童文学と教育」の関連イベントとして、宮川ひろの息子さんであり、児童文学研究者である宮川健郎さん（大阪国際児童文学振興財団理事長）、お孫さんである宮川朋さんのおふたりをお迎えし、11月30日（月）に「トークイベント」が行われました。「第1部　宮川ひろの児童文学と教育」「第2部　家族から見た〈宮川ひろ〉」という2部構成で行われ、現代児童文学を代表する作家のひとりである宮川ひろの創作の原点や作品が生み出された背景にある家族との関係についてお話が伺えるまたとない機会となりました。当日は宮川ひろの出身地である群馬県沼田市の教育委員会の方たちをはじめ、一般の方も含めて30名ほどの方がご参加くださいました。貴重なお話の一端とともに、宮川朋さん、参加者の感想をご紹介します。

児童文学作家
宮川ひろ（1923～2018）

第1部　宮川ひろの児童文学と教育

～囲炉裏端の板の間から続く道～

「第1部　宮川ひろの児童文学と教育」では、図書館長の中地文教授の司会のもとに、宮川健郎さんに児童文学研究者としてお話を伺いました。

まず話題となったのが「宮川ひろにとっての〈ふるさと〉」についてです。「宮川ひろにとって〈ふるさと〉はどのような場所であったのでしょうか」との質問に対して健郎さんは、当時のひろのふるさと千鳥（現群馬県沼田市利根町千鳥）は、街道の両側に家があるだけの小さい集落で、集落のすべてが互いに手に取るようにわかる関係性にあったことをお話しくださり、「母にとってはあの世界が世界のすべてであり、母の〈根っこ〉だったと思います」とおっしゃいました。

そうした中で特に父母や兄が様々な形で風景や自然を言葉で切り取って与えてくれたことが作家としてのひろの原体験として重要であったと話されました。健郎さんは、幼いひろが「かげろうってどうして燃えるん?」と聞いたことに対して4歳上の兄が、「それはなあ、おいらだってさあ、春になると、なにかしてみてえなあって、ほれ心がおどるでねえか。それと同じだ」「土の心が燃えてるだよ」「その燃えることをな、希望っていうだ――」と語ったエピソードに触れ、抽象化された言葉で自然や風景を切り取り、物語化する経験がひろの生涯を通して重要な意味をもっていたとおっしゃいます。

同時に健郎さんのお話からは、ひろが父親の語る義太夫の芝居っけのあるリズムに普段から親しんでいたこと、そして毎晩のように囲炉裏端の板の間の小さなステージに立ち、父親に向かってその日の出来事を物語として語っていたという思い出が、晩年に至るまでひろの物語の〈根っこ〉

になっていたことが浮かび上がってきました。

こうして〈大切な誰かに向けて語る物語〉として創作することが、ひろの生涯を通じた創作のスタイルとなっていったようです。のちに坪田譲治との出会いが児童文学作家を志すことを決定づける重要な契機となっていきますが、健郎さんは「(ひろは)自分の父親に板の間で話したように、何か書けば先生が見てくれると思って書いていたのでしょう」と、幼い日に板の間で話した物語の延長線上に数々の作品があるとお話しになりました。後年のひろにとって千鳥は「一種のユートピアであった」と健郎さんがおっしゃる通り、ふるさとはひろにとってまさに〈根っこ〉であったことが再確認できました。

後半は教育との関わりについて、特に自身が教員として集団疎開を引率した経験にもとづく『夜のかげぼうし』(1978年 講談社)等の戦争を描いた作品が話題の中心となりました。そこからは、戦争という過酷な状況の中で教員として必死で過ごした日々を、若い教員の実感として責任をもって書き残しておきたい、という気持ちをひろが強く持っていたことが伝わってきました。健郎さんは、戦争体験者のおじいさんを通して日本の近代史に翻弄された人間の苦しみを語る『春駒のうた』(1971年 偕成社)も、戦争児童文学と言えるものである、と分析していました。

第2部 家族から見た〈宮川ひろ〉

「第2部　家族から見た〈宮川ひろ〉」では、宮川健郎さんに加えて、お孫さんの宮川朋さんにもお話を伺いました。司会は大木(東北工業大学准教授、宮城教育大学非常勤講師)が務めました。

初めの話題は、〈家族としての宮川ひろ〉についてでした。「よく折に触れてあんなことがあった、こんなことがあったと家族で話をしました」(健郎さん)、「お気に入りの話があって、一緒にご飯を食べていると、外国に行った時の話といったような、落語のようにおもしろいお話をよくしてくれました」(朋さん)といったこと以外にも、「(同居しているのに)節目節目で手紙を渡してくれました。書くということをコミュニケーションの手段として大切にしていたようです」(朋さん)といった様子からは、家族との語らい、そして書くということをひろが日常的に大切にしていたことが伝わってきます。

そうした家族との語らいが具体的な創作の〈種〉となったことも多かったようです。幼い頃の健郎さんや朋さんが書いた作文の内容をもとにして生み出された物語について、ご紹介くださいました。朋さんの作文に取材して書いた作品が重版されると、ひろは毎回素材提供者である朋さんにお小遣いをくれたそうです。

そうした中でも、小学校1年生の時から健郎さんがひろに言われて毎日作文をノートに書き続けたエピソードは、大変興味深いものでした。小学1年生から6年生まで毎日書き続けられた作文ノートは何十冊にもなるそうですが、そこに描かれたことがその後、『0てんに かんぱい!』(2012年 童心社)をはじめとして様々な形で作品として結実していくこととなります(ちなみに実際に健郎さんがとったのは10点だったそうです)。その中の1冊を当日お持ちくださったのですが、そこにはひろの手によって多数の付箋が付されており、ひろにとって健郎さんの作文ノートが貴重な資料だった様子がうかがえます。

こうしたひろの様子について健郎さんは、「作文を書かせることで子どもの言葉や感受性を獲得するのに必死だったんだと思います」とおっしゃいました。「小さいときは、僕が書いたものなのに自分が書いたかのような母子癒着感があったかもしれません。母の中で僕の書いたものと母の書いたものの区別がないというか、ハードルが低かったようです」と自らとひろのテキストとの関係を「テキストの母子癒着的関係」と語る健郎さんや、「晩年になってからも書いたものを必ずまずは(健郎さんに)見せていました」という朋さんのお話からは、宮川ひろ・健郎母子の相互に影響し

あい成長し続けた豊かな関係性の一端がかいま見えます。また、健郎さんが「ある時から作家と同伴者みたいな関係になってしまった」とおっしゃるように、こうした宮川ひろとの関係が、健郎さんの児童文学研究者としての道筋にも大きな影響を与えたことも大変興味深い点でした。

最後に「一番作品を届けたかったのは誰だったと思いますか」との質問に対し、朋さんは「普段の生活の中でいい話が見つかると書くということが創作の基本だったと思います。あとは千鳥の記憶、ユートピア化された思い出が常に視線の先にあったのではないでしょうか」とおっしゃいました。同様に健郎さんも「結果的にいろいろな人に読まれて本は流通しましたが、やはりおとっつぁんに向けて書いたんだと思います。ある時それは坪田先生にかわったのではないでしょうか。坪田先生はおとっつぁんが生身で現れた感じだったんだと思います」とおっしゃっています。お二人ともに原点が千鳥にあるとお答えくださったことが印象的でした。

“あたたかな囲炉裏端の板の間で語られ、手渡される物語”――まさに宮川ひろ作品の底を流れるあたたかさの源泉にふれるようなお話でした。

企画展トークイベント

日時 2020年11月30日（月）
13：30～15：30

場所 2号館 229教室

第1部　宮川ひろの児童文学と教育
宮川健郎（大阪国際児童文学振興財団理事長）
大木葉子（東北工業大学准教授）
中地　文（本学教授、附属図書館長）

第2部　家族から見た〈宮川ひろ〉
宮川健郎（宮川ひろ　ご令息）
宮川　朋（　同　　ご令孫）
大木葉子（司会）

「いのち」さがし

宮川　朋

人には命がふたつあるといいます。〈元気な時の命は漢字の「命」みんなのなかに思い出として残っている命はひらがなの「いのち」……。ご生前以上にいっぱい語り合って支えてもらってくださいね。〉祖母は、交流のあった小学校の先生がお母様を亡くされたとき、手紙でこう語ったそうです。

祖母が他界して、私には、もっと深く語らいたかったという思いがありました。祖母は、穏やかでやさしい語り口の人でしたが、瞳の奥には強さが、「自分だけの領域」がありました。納骨のころ、この命の話を知り、私の「いのち」さがしが始まったのです。簡単なのは仏壇の前に立つことで、手をあわせれば必ず、居間で私を迎える祖母の顔が浮かびました。作品を読めば、祖母が、文章に自分自身の声や息づかいをのこしたことに気がつきました。

『宮川ひろの児童文学と教育』展も、「いのち」さがしの気持ちもあって参加させていただきました。そこでまず思わぬことが起こります。すばらしい展示に「おばあちゃんにも見せたかったなあ」と考え祖母が会場を歩く姿を想像すると、「生涯の展示だから、おばあちゃんが見るなんてあり得ないじゃない」ともう一人の自分が言うのです。逝去後はじめての企画展で、私は、祖母が「命」を失ったことをはじめて理解したのでしょう。

そのあと、会場ではたくさんの「いのち」を見つけました。「いのち」さがしは大収穫です。作品や様々な方との関わりの記録を、中地文先生と大木葉子先生が丁寧に展示してくださいました。トークイベントでは、みなさまと「いのち」を発見し、語り合う時間をいただきました。「いのち」は、次はどこにかくれているのかな。そう考えながら青葉山を下った帰り道、仙台の夜の街並みがとてもきれいに見えました。

企画展トークイベント
参加学生の感想より

はじまりの「板の間」

大学院修士課程　国語教育専修2年
菊田　佳那

　これまで本を読む中で、作品が描かれた時代背景や内容そのものに注目することが多かったが、作者にこれほどフォーカスを当てて作品を読んだことは一度も無かったように思う。今回、「宮川ひろトークイベント」に参加し、普段は知ることのできない家庭での作家の姿に触れたことで、また新たな角度から児童文学作品を捉えることができた。

　宮川ひろは、幼少期から自宅の「板の間」で今日あったいいことを語る習慣があった。それは、話の種を集めて発表する場であり、のちに作家となるひろの「はじまり」の場でもあると思われた。一昨年、ひろは95歳でその生涯を閉じたが、現在も宮川家の食卓では「板の間」が続いているそうだ。

　また、教員としての一面もあるひろは、「学校は村」と捉え、「学級は家であり、親である学級担任と子どもである児童は家族である」と考えていたように見受けられるという。家族や学校、故郷である千鳥など、コミュニティの中で築き上げた世界観もまた、彼女の作品や生き方に大きく影響しているのだろう。

　私は来年度から小学校の教員として働くが、学校を一つのコミュニティと捉え大切にしていたひろのように、子どもたちにとってよい親であり、よい手本となりたい。そして、学級文庫に宮川ひろの児童文学作品を置き、子どもたちにもその世界観に触れてほしいと思う。

記録者としての宮川ひろ

大学院修士課程　国語教育専修2年
濵　泰斗

　ひろの生涯を見ると、多くの登場人物が瑞々しく浮き上がってくることに驚かされる。幼少期には、陽炎を「土の心が燃えてる」と説明した感受性豊かなお兄様、また40代以後は師匠的存在であった坪田譲治氏、あまんきみこ氏など、非常に多くの存在が年表に見受けられる。こうした様々な交流の中で、ひろの児童文学作家としての土壌が築かれていったように思う。

　そして、ひろの作品への態度という点も興味深い。ひろは、どのように自分の作品と向き合っていたのだろうか。

　諸作家が自らの小説の書き方を解説している文献を紐解いて見ると、自らの着想を一つの拠り所とはしながらも、物語自体が自発的に展開していく様子を作家自身の文体で記録するという態度が見受けられる。ここには登場人物、構成といった要素さえ作者による介入の余地はほとんどない。

　もちろん全作家に当てはまることではないだろうが、少なくともひろはこれを引き継ぐ作家だったように思う。今までの経験やご子息健郎氏の作文から得られた題材を、児童文学という一種の文法で記録していくことがひろにとっての生きがいだったのではないだろうか。健郎氏に作文を書くよう促し、それを集めて付箋を貼っていたというのも、一記録者として必要な営みだったのではないかと想像する。

　今回学んだ作品の背景にあるひろの精神的風土や人柄を踏まえながら、宮川作品が持つ独自の世界観を豊かに読み解いていきたい。

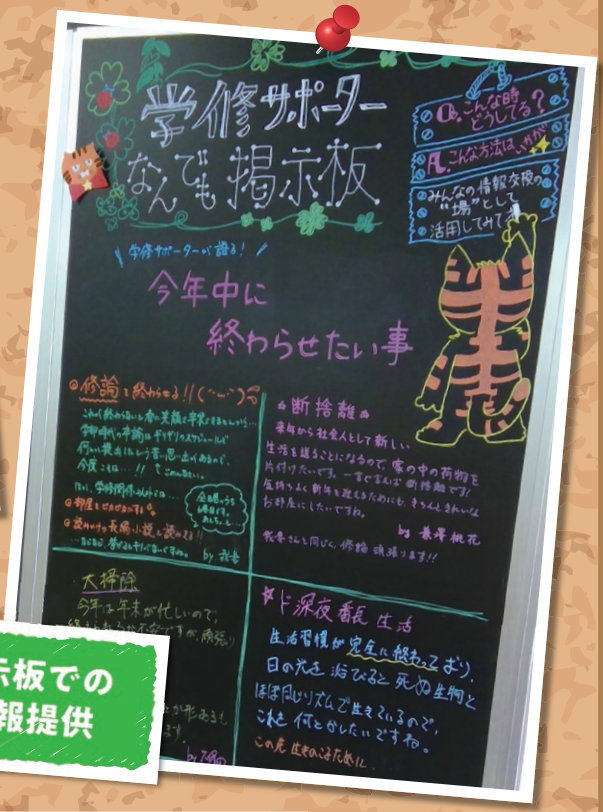
学修サポーターに聞いてみよう!!

学修サポーターとは？

先輩の学生が「サポーター」として、図書館の効果的な利用法や、大学での勉強の仕方、レポート添削など、みなさんの学生生活のお手伝いをします。

学生同士なので気軽に相談してみてください！

相談デスクでの各種サポート
（平日午後2:30頃～）



掲示板での情報提供

ポータルサイトでの情報発信

Googleチャットでの相談も受け付けています

lib-supp@staff.miyakyo-u.ac.jp

- スマホ・PC・タブレット、いずれでも可！
- 24時間書き込みできます（活動時間に回答します）

おすすめの本も紹介しています!

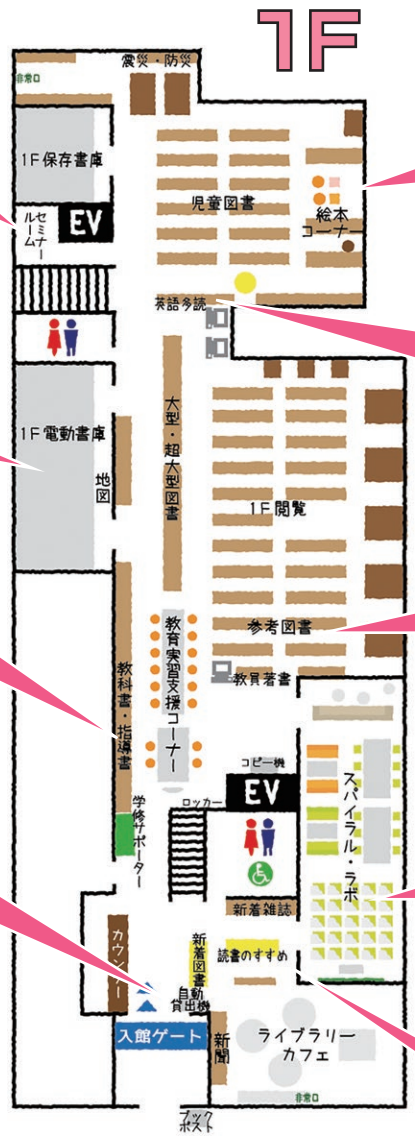
新入生のみなさんへ

誰かと相談しながら学修するのが難しい世の中になりましたが、学修サポーターはいつでもみなさんの味方です！サポーター席でもオンラインでもお待ちしています！

Mission!!

スタンプラリーで図書館を使いこなそう！

館内のチェックポイントをまわり、設置されているカード（または該当する資料、撮影画像）をもってカウンターでスタンプをもらおう！集めたスタンプ数に応じて、図書館グッズをプレゼントします！
図書館の基本的な使い方を自分のペースで学びながら、グッズももらえるチャンスです。お見逃しなく！



Mission 1 セミナールームに入ってみよう！

Mission 2 電動書架を動かしてみよう！

Mission 3 最新の教科書を読んでみよう！

Mission 4 自動貸出装置を使ってみよう！

Mission 5 気になる絵本や児童書を借りてみよう！

Mission 6 多読資料を借りてみよう！

Mission 7 辞典や事典を使ってみよう！

Mission 8 電子黒板を使ってみよう！

Mission 9 展示コーナーの資料を借りてみよう！

Mission 16 学修サポーターからの課題に挑戦してみよう！

Mission 17 学修サポーターポータルサイトを見てみよう！

Mission 18 マイライブラリでブックマークを使ってみよう！

スタンプ5個でGET！

木製しおり3種
(杉・ひのき・ウォールナット)
いずれか1つ

スタンプ15個でGET！

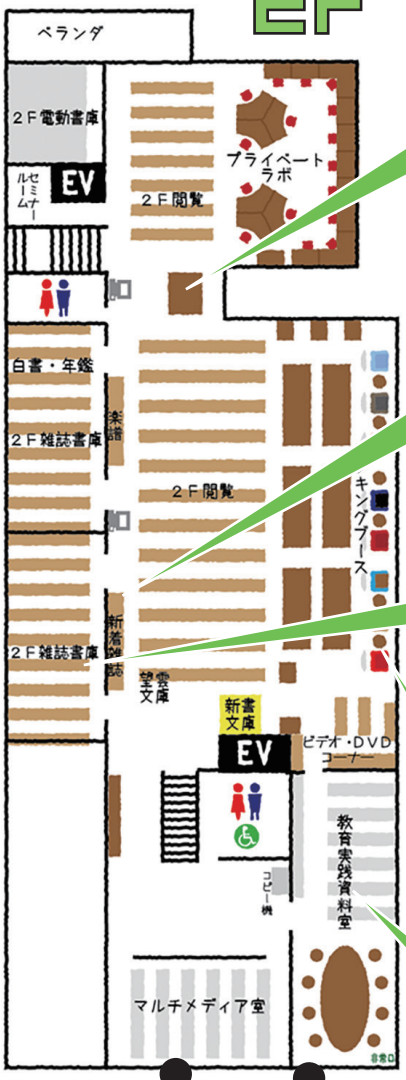
携帯用はさみ・ステープラー・メジャー
いずれか1つ

スタンプ20個でGET！

キャンバストートバッグ2種
(ナチュラル・紺)
いずれか1つ

スタンプラリー実施期間：4月6日～4月30日

2F



Mission 10 常設展を見て感想を書いてみよう！

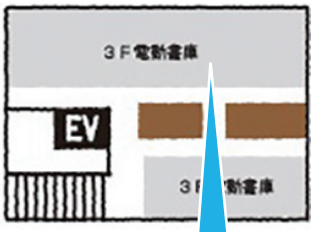
Mission 11 気になる学術雑誌を手に取ってみよう！

Mission 12 製本された雑誌『教職研修』を探してみよう！

Mission 13 気になる椅子に座ってみよう！

Mission 14 教育実践資料室に入ってみよう！

3F



Mission 15 小学生のころに使っていた教科書を探してみよう！

図書館は、本を読むだけの場所ではなく、様々なイベントも開催しています。最新情報はホームページや館内の掲示、メール、SNSで発信していますので、定期的にチェックしてくださいね。

Mission 19 借りた本の感想を書いてみよう！

Mission 20 図書館のSNSアカウントをフォローしよう！

Twitter　Facebook

Mission Complete!!

トショカンスタンプラリー

スタンプラリー実施期間：4月6日～4月30日

Mission 1
Mission 2
Mission 3
Mission 4
Mission 5
Mission 6
Mission 7
Mission 8
Mission 9
Mission 10
Mission 11
Mission 12
Mission 13
Mission 14
Mission 15
Mission 16
Mission 17
Mission 18
Mission 19
Mission 20

＼スタンプをためて／

グッズをGETしよう!!

宮城教育大学附属図書館
〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149
TEL：022-214-3350
E-mail：toshokan@adm.miyakyo-u.ac.jp

こもれび No.136
【編集発行】
宮城教育大学附属図書館
運営委員会
附属図書館オフィシャルサイト
http://library.miyakyo-u.ac.jp/

このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。
環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。